

閉会挨拶（3月28日）

運輸総合研究所理事長の佐藤です。お疲れのところ恐縮ですが、閉会に当たり一言申し上げます。

まず、ご登壇いただいた筑波大学名誉教授で日本みち研究所理事長の石田先生、国交省の河田課長、十勝バスの野村社長、ネクストモビリティの藤岡副社長、前橋市の細谷課長、長時間にわたりご参加いただいた大勢の視聴者の皆様、そして当研究所の活動をご支援いただいている日本財団に御礼を申し上げます。

さて、本日のシンポジウムは、当研究所で2020年度から実施してまいりました「新しいモビリティサービスの実現方策に関する調査研究」の成果のお披露目の場でもありました。この調査研究では、石田先生を座長とする検討委員会を2年間で計11回開催し、「新しいモビリティサービスを実証実験で終わらせることなく、持続可能な形で定着させるにはどうすればよいか」議論を重ねてまいりました。

私は、この検討委員会11回全てに出席いたしましたが、正直に申し上げて、当研究所で実施している他の調査研究の委員会と異なり、毎回、委員会での議論を聴いて「楽しい」とか「気持ちが暖かくなる」と感じておりました。そこで、「なぜ、そんな風を感じるのだろうか」と考えてみましたが、それは、石田先生、

河田課長を始めとする委員の方々や検討委員会に招かれた野村さん、藤岡さん、細谷さんほかの講演者の方々が、「モビリティサービスを様々に工夫して上手に活用することにより、地域の悩みの解決に近づくことができるのではないか」、言い換えれば、「モビリティサービスで地域の人を幸せにできるのではないか」という考えを持って議論されていたからだろうと思っております。

運輸総研では、この「新しいモビリティサービスの実現方策に関する調査研究」の成果を、本年6月を目途に書籍にして出版する予定です。関係者の皆様には、是非、この書籍を手にとって、石田先生を始めとする有識者の方々がこの書籍に込めたメッセージに触れ、「モビリティと人の幸せ＝ウェルビーイングとの関係」について思いを巡らせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。この後、今後の予定のお知らせがあります。また、アンケートへのご協力も、よろしくお願いいたします。

本日は、最後までご視聴いただき、誠にありがとうございました。